レッスン：23A

テーマ：創造

CREATION23A.AEN

私の兄弟、姉妹達、

霊、光、火の子供たちよ。私達は常に神、絶対、神の聖性に抱かれています。

　　私達の今の仕事は、これまでのレッスンで与えられた内容を要約し、創造とその目的、創造と人間のイデア、動物界や植物界など他のLifeの形態との関係について理解するのを助けることです。

それ自身のアウタルキー（＊自己充足状態）とそれ自身の多様性の中にあるワンネスである絶対存在、絶対英知・絶対パワー・絶対善という聖なる三位一体の中にあるワンネスである絶対存在。絶対存在のアウタルキーの主な特質は、他からそれを動かし、波動させ、振動させるものが一切なく、（それ自身による）動き、波動、振動です。この神のアウタルキーの状態において、絶対存在の多重性における全ての聖なるモナドは、存在(Beingness)の状態にあります。この存在の状態では、神の黙想は現れとして顕現されていません。そのアウタルキーと多重性にある絶対存在は、永続的に黙想し、それ自身の中でそれ自身を現しています。絶対存在の聖なる黙想の結果として、それ自身の内に絶対存在であるキリスト・ロゴス(Absolute Beingness Christ Logos)、および絶対存在である聖霊(Absolute Beingness Holy Spirit)という現れがあります。

創造と現れ・表現のための神の黙想の動きは、絶対存在の中にもう一つの状態を定めます。それは神のエバレスキア（＊神の黙想が動き・波動・振動の状態を通じて、それ自身をそれ自身の中で現した結果）です。神のエバレスキアの世界（＊複数）の中で、その結果の可能性が与えられます。

Lifeが表現されている存在の諸世界に関して、この可能性は元型、イデア、法則、原因として提供されます。Lifeの現象の世界、現在のパーソナリティーの世界では、この可能性は今や結果を現します。Lifeの現象の世界は原因と結果の世界であり、そこでは、活動、波動、振動が原因と類似した結果を与え、その結果、動き、波動、振動のようなものが生じます。

　　神のエバレスキアは神のアウタルキー内にあり、始めも終りもありません。なぜなら絶対存在はそれ自身内で永遠に黙想しているからです。神の黙想の結果を顕現させるために、キリスト・ロゴスと聖霊はマインドを使用します。アウタルキー内のマインドは絶対存在の本質内にあります。

　　マインドは創造の全ての諸世界における創造にとって不可欠な要素であり、それを通じて表現・現れが可能となるのです。それはいわば海であり、その中で全てが形成され、生きています。

　宇宙における最小の動きですら、マインドと呼ばれるこの汎宇宙的記憶に記録されます。何であれ記録されるためには、マインドに何らかの意識が付与されていることが必須です。この意識は神の黙想と神のブレーシス（＊神の意志）の結果である法則それ自体です。

　神のエバレスキア内のマインドは異なった波動においても存在し、それによって創造界の様々な世界でLifeが表現されることが可能となります。様々な波動のマインドによってそれらの世界は異なるものとなり、存在の世界のLifeそれ自体、あるいはLifeの現象となります。

\*Page2

マインドは創造界の様々な世界を定義するのみならず、マインドそれ自体が非常に精妙な形態であり、私達がエーテル・バイタリティー（＊エーテル活力）と呼んでいる状態です。エーテル・バイタリティーと呼ばれるエーテルはそのような形態のマインド、エネルギー、パワーであり、それはマクロコスモス（大宇宙）、メゾコスモス（中宇宙）、ミクロコスモス（小宇宙）としての宇宙を築き、維持しています。

いわゆる鋳型として、ダブル・エーテリック、あるいはそれぞれのエーテリックと呼ばれるものがあり、その鋳型の上にLifeの現象の様々な世界が築かれ、維持されています；同じようなエーテリック・ダブルが、現在のパーソナリティーの体を構成する三つの異なった体の中にあります。それを通じて現れが可能となるのです。

　絶対存在のダイナミックな、あるいは創造的な現れである聖霊 (Holyspiritual)は、宇宙を形成するためにマインドを使用します。アウタルキーの状態にある絶対存在は、無数の聖なるモナドから構成されており、聖なるモナドは無数のHoly Monad Spirit Being （聖なるモナドとしてのスピリット存在）から構成されています。個別のブレーシス（＊神の意志）のゆえに、Holy Monad Spirit Being（聖なるモナドとしてのスピリット存在） がそれ自身の微小な部分を創造界へと放射します。その放射は人間のイデアであるロゴスの現れを通じて行なわれるか、あるいはアークエンジェル（＊大天使）を現すために、聖霊の下降を通じて創造界に入ることを選択します。

　　聖霊の下降の場合、それは創造界に奉仕するという唯一の目的をもって、アークエンジェルの種々の組織あるいはグループ、支配を通じて行なわれることを意味します。実際、それはアークエンジェルが特定の能力内で、特定の目的のために奉仕することを意味します。この奉仕は人間のイデアのため、あるいは動物界と植物界のためのものです。

　アークエンジェルはエバレスキア内で奉仕するにもかかわらず、神のアウタルキーを離れることはありません。それらのHoly Monad Spirit Being（聖なるモナドとしてのスピリット存在） からのスパークが下降し、今や特定の意識の中で制限されます。その目的は創造界において特定の局面に奉仕することで、それ以外の何ものでもありません。アークエンジェルにはそれが属する特定のグループのセルフ・エピグノーシス以外には、セルフ・エピグノーシスを有していません。一つのグループ（オーダー、組織）は無数のアークエンジェルから構成されています。

人間のイデアを通じて来ることを決めたHoly Monad Spirit Being（聖なるモナドとしてのスピリット存在） は、ロゴスの現れを通じて下降し、それらのロゴスの現れは特別な理由のために現わされます。その理由とはそれらの個別性を現すことができるようにすることです。私達がロゴスの現れと言うときは、勿論人間のイデアについて話しています。このプロセスを経るというブレーシスは、聖なるモナドそれ自身から来るのですが、しかしその背後には創造界でこのプロセスを通過できるようにする神のサポートがあります。

　　私達がセルフ・エピグノーシス（＊私つまり個別性という質）と呼ぶこの能力はすべての聖なるモナドの本質としてあるのですが、それは非顕現の状態にあります。この能力によって、Holy Monad Spirit Beingはそれ自身の多様性の中でその個別性を実現することができ、その多様性の中で他の誰かの「I'ness」（私であること）とは異なる「I Am I」（私は私である）と言えるようになるのです。

ただ一つのセルフ・エピグノーシスがありますが、様々な創造界の中でそれが経験している制限のレベルに応じて、それ自身を様々な異なったレベルで表現します。創造界で表現されるものは全て、それらの表現内および絶対の中でのみ生じ、それ以外のところではありません。

　植物界や動物界といった創造界におけるその他全ての現れは、人間のイデアに奉仕するために創造され、維持されています。それは現在のパーソナリティーが自ら課した制限の中で活動して、それ自身を現わすための領域を提供する環境を形成するためです。このように言うのはエゴ的に思えるかもしれませんが、それは事実なのです。ロゴスの現れの主な目的は、自分たちの魂のセルフ・エピグノーシス(Soul Self Epignosis)としての能力を現すことができるようになることです。

\*Page3

セルフ・エピグノーシスはロゴスの現れの質ですが、個別性を獲得する能力を与えます。魂のセルフ・エピグノーシスはそれ自身を元型、イデア、法則、原因の世界で表現しますが、それらの世界は四つのヘブンです。これら四つのヘブンは超ノエティック、およびノエティック界であり、同時に存在の諸世界、ステート（＊状態）の諸世界でもあります。魂のセルフ・エピグノーシスがそれ自身をさらに下降させると、実存(existence)の諸世界に入り、その瞬間、魂のセルフ・エピグノーシスは別の色を帯び、それは永遠のパーソナリティーと呼ばれるようになります。この位置において、永遠のパーソナリティーから微小なスパークが実存の世界、つまりLifeの現象の二元性の世界、原因・結果の世界に入ります。

　セルフ・エピグノーシスのレベルは、現在のパーソナリティーの思考・行動の仕方として、時間・空間の意味内の意識の動きによって決められます。

セルフ・エピグノーシスは幾つかの創造の諸世界を通ってさらに下降し、最後には三次元のレベルに到達します。物質はより低い表現形態です。ロゴスの現れを通じて下降するそれらのSpirit beings（スピリットである存在）の微小な部分は今や、プロセスを経なければならないのです。

学ぶために便宜上、この下降を高い位置から徐々に下に下がるというように考えます。そして、この下降における各段階で波動が変化し、より濃密になり、ロゴスの現れに異なった色を与えていきます。このようにして、現在のパーソナリティーを創造するために、ロゴスの現れはスーパーサブスタンス、サブスタンス、超物質、物質というように様々な波動のレベルのマインドを経ます。現在のパーソナリティーは生まれ出たものですが、しかし創造されたものでもあります。なぜなら、それは物質の四つのエレメントを使用するからです。

物質はより低いレベルの現れであり、水・空気・土・火という四つのエレメントからできており、マインドの波動の最も低い表現です。

魂のセルフ・エピグノーシスは無知の中に取り込まれることはなく、それは最も内奥のセルフであるHoly Monad Spirit Being（聖なるモナドであるスピリット存在）の特質を表現しています。もし 魂のセルフ・エピグノーシスを直線の一方の端と仮定すれば、永遠のパーソナリティーは他方の端です 。魂のセルフ・エピグノーシスが有している能力が今や永遠のアトムとして、永遠のパーソナリティーから表現されるということ以外には、質と現れにおいては両者の間に違いはありません。この永遠のアトムは継続的な現在のパーソナリティーとして転生します。これはいわゆる三つ目のヘブンで生じ、最初の下降の間、これらの世界は依然としてパラダイスです。なぜなら、永遠のアトムが無知の中に取り込まれていないからです。

　永遠のアトムが今や下の三つのヘブンに下降し始めると、それは制限の世界、幻想の世界、二元性とLifeの現象の世界に入ります。

ノエティカル界およびサイキカル界の中で表現される新しい現在のパーソナリティーは、インナーセルフの特質を完全に現します。これらの現れのためのこれらの世界は「パラダイス」です。この瞬間から、現在のパーソナリティーは物質界に入ります。

　現在のパーソナリティーはノエティカル体、サイキカル体、肉体という三つの体から構成されており、これら三つの体は現在のパーソナリティーの現れを提供します。

　毎回、新たに現在のパーソナリティーを転生させるのは、この永遠のアトムです。現在のパーソナリティーは三つの次元の世界、そして無知の中で表現されます。永遠のアトムが下降すると、人間は実存の諸世界、物質の諸世界、私達が今住んで馴れ親しんでいるこの世界に入ります。

\*Page4

　　物質界に入ることによって、五つの超感覚の現われは制限され、五感は「五人の愚かな乙女達として」現れ、現在のパーソナリティーは制限の諸世界、Lifeの現象の諸世界に入ります。

なぜ、現在のパーソナリティーは無知の中に取り込まれなければならないのでしょうか？もし現在のパーソナリティーが無知に取り込まれないとしたら、現在のパーソナリティーは依然として絶対英知・絶対パワー・絶対善としての本質的特質を表現していることになります。永遠のアトムは依然としていかなる制約も受けることなしに、最も内奥のセルフの質を表現していることになります。それでは、人間のイデアを通じて下降する理由がありません。なぜなら、絶対存在からの現われと違いがないからです。

　その場合、報酬を求めることなく創造界に奉仕している、私達の兄弟であるアークエンジェルの下降との間の違いがなくなります。

　ですから、三つの次元の世界にまで下降する結果として、現在のパーソナリティーが無知の中に取り込まれ、セルフ・エピグノーシスが無知の中に取り込まれ、セルフ・エピグノーシスが限界の中で制約を受ける必要があるのです。その結果、その下降する以前の起源に関してある種の記憶喪失を引き起こし、人間は今や試練と過ちを通じて、物質の魅力の中で存在し、機能し始めます。

人間はノエティカル体、サイキカル体、肉体という三つの体から構成される体を持っているので、三つの体全部が無知の中に取り込まれます。

人間が物質という最下位の世界に下降すると、それぞれ**永遠のアトムを有する三つの不定形の体が与えられます。**

　　初めての下降する時には、そこに記録される経験が何もないので、これら不定形の体は完全にカラです。植物界および動物界と同じように、種の保存と繁栄のための本能だけがあります。言い換えれば、サバイバルおよび徐々に経験を通じて獲得するための本能が具わっています。

しばしば人間は自分自身の本質や起源に関する無知のために、エーテル・バイタリティーとしてのマインドを悪用し、自分自身のみならず周囲の人間にも不健全な状況を生みだします。

特定の人間が特定の環境の中で得ることができる全ての経験を得たことが必要(\*英語の誤り？）だと思われると、死という現象が生じ、肉体は捨て去られ、現在のパーソナリティーは今やサイコノエティカル界で生きるようになりますが、依然として経験を得ています。このパーソナリティーがサイコノエティカル界で飽和点に達すると、引き戻され、全ての経験は永遠のアトムの上に記録されます。

　**これらの永遠のアトムがより一層の経験を得る時が来ると、新たなパーソナリティーが創造されますが、その新たなパーソナリティーは過去生の全ての経験を携え、さらに新しい経験を記録するためにまっさらなものも携えていきます。**

魂のセルフ・エピグノーシスは三つの美しい体を有していますが、それらは行動を計測する物差しのような働きをします。特定の行為において、「こうあるべきである」という内なる知識があり、不定形の体が実際にどのような行為を取ったかによって、意識の苦しみを生みだします。その結果、不愉快な感じ、不満足な気持ちが生じ、そして恐らく「心の平安」を取り戻すために言動を正そうとする試みが起こります。

　人間が無知から解放されるのは経験を通じてであり、また経験を通じて人間は個人として進化、成長します。進化の道の途上において気づきが増すからです。

\*Page5

光の意味を認識するためには、それを闇の意味と比較しなければなりませんが、それは二元の対立するものの意味を通じてのみ経験できることです。

　初めての転生における人間の気づきは本能のようなものであると言うことができ…人間の場合には永遠のアトムのロゴスの現れであるスパークが内側にあることを除けば…実際に動物の現れと人間の現れとの間に表面的には大した違いはありません。

これは私達の内側で生じている何かのゆえの転落と言うことができるのでしょうか？これは聖なるモナドとしての私達の聖なる黙想であり、私達が経験しているこのプロセスは実際には私達の内側にあるのです。セルフ・エピグノーシスと呼ばれる特質は常に私達の内側にありますが、表現されていません。それが表現されるためには、私達は黙想を経なければならず、その黙想の結果が現在生じていることなのです。このプロセス全ては聖なる黙想なのです。

**現在のパーソナリティーが三つの次元の世界に下降すると、それはエゴイズムの様々な局面に魅かれ、意識があまりにも制限されてしまい、セルフ・エピグノーシスの本能的レベルのみを表現するようになります。意識は非常に狭まり、動物の表現と大した違いがなくなります。**

　しかしながら、人間は永遠のアトムという形でロゴスのスパークを有しているので、徐々に比較し、いぶかり、考え始めるようになります。思考が機能し始め、問題に直面するとまずそれにフォーカスし、考察し、比較し、答えを見出すようになります。

そして今や、人間は上昇への道をスタートする準備ができましたが、気づきが狭まっているので最初は非常に緩慢なものとなります。

私達は常に神、神の聖性に包まれています。

EREVNA/CRET23A/DOC.AEN/23A/5END.